

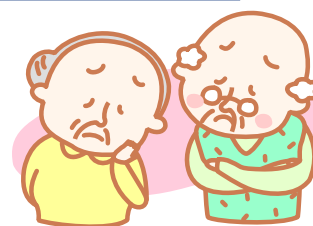
新型コロナウイルス感染症対応リーフレット

感染防止には職員皆さんの感染対応力向上が不可欠です！

1. 入院・入所者に疑わしい症状を認めたとき

① 新型コロナウイルス感染症には次のような症状があります

- ・風邪症状： 発熱 咽頭痛 頭痛 鼻水 消化器症状
- ・呼吸器症状： 咳およびそれに続く呼吸困難感 呼吸不全の増悪
- ・全身症状： 倦怠感 食欲不振 活動性の低下



② 検査結果が分かる前から、疑い患者は隔離して感染対応しましょう

- ・疑わしい患者には、速やかに新型コロナウイルスの検査を実施します。判定には多少時間が必要です。
- ・PCR 検査は唾液採取が一般的ですが、高齢者では唾液採取が困難なので鼻咽頭を拭って採取します。

2. 検査の結果が陽性のとき

- ・速やかに保健所へ発生を届け出してください。陽性患者の健康状態によっては搬送されます。既往歴やバイタル情報を記録し、圏域担当の保健所へ報告と相談をしてください。
 - ・無症状の陽性者については、その施設内でゾーニングと職員の感染対策をして、経過観察します。
 - ・陽性者は出来るだけ個室等へ隔離します。室内へ入るには個人防護具(PPE)の着用が必要です。また室内の物品も消毒しない限り室外へは持ち出さないようにします。食事残飯や汚物などは感染性の廃棄物として密封してから、室外へ運びます。
 - ・陽性者の経過観察期間は、10日間経過かつ症状消失後72時間経過後です
- ※オミクロン株感染での無症状患者は、検体採取日から7日間経過後で解除可能です。

感染防御はメリハリが大事！清潔区域へ汚染を持ち込まないよう注意します！

【感染対策の基準例】感染経路は「飛沫感染」「接触感染」「マイクロ飛沫感染」の3種類です。あなたが場所や作業内容に対して適切な感染防護基準を守ることによって、利用者の健康が守られます。

| 場所や作業内容 | サージカルマスク | N95マスク | 手袋 | ゴーグル フェイスシールド | ビニール エプロン | 長袖 ガウン |
|--------------------------------------|----------|--------|----------|------------------|--------------|-----------|
| スタッフルームでの書類処理や雑務 接近接触しない患者への入室と対応 | ○ | | | | | |
| 接近・接触する入院患者への対応 (口腔ケア・食事介助・排泄介助等) | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 汚染エリア(陽性部屋等)入室と対応 | △ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 陽性者への接近・接触する対応 (喀痰吸引・口腔ケア・食事介助等) | × | ○ | ◎ ※二重 | ○ | ○ | ○ |

※手袋の一重目は自分を守るため、二重目は利用者から利用者へ感染を伝染さないためです。

外側の手袋やビニールエプロン等は、汚れていなくても利用者ごとに取り替えます。

3. 有症状者や、濃厚接触者とされる入所・入居者や職員への対応

- ・ 平時からの有症状者は特に注意して状態観察と健康チェックを実施します。感染が疑われる場合は、躊躇せず検査して、**管轄の保健所へ相談**しましょう。
- ・ 濃厚接触者は7日間の待機期間が求められます **※医療従事者や社会機能維持者は緩和措置有り**
- ・ 感染の連鎖を阻止するためには、陽性になりやすい濃厚接触者を特定して管理することが重要です。

(濃厚接触を疑う対象者例)

- > 陽性者と近い場所での食事、陽性者と同じ時間帯での入浴、喫煙室等での近接した入院患者入所者
- > 日頃からマスクをしていない、またはマスクをずらしている入院患者・入所者
- > 日常から交流が多く近接している入院患者・入所者
- > 職場で感染対策基準を順守出来てなかった疑いの職員、私生活での感染対策を怠った職員



4. 日常における感染予防と対策について

新型コロナウイルスは感染力が高いウイルスですが、標準的な感染対策や健康管理によって予防は可能です。下記のポイントを参考にして、感染対応に強い職場環境と人間関係を作りましょう。

① 頻繁な手指消毒と、適度な清掃消毒を行いましょ

「1手技1消毒」と言われるくらい、頻繁な手指消毒が感染を伝染させないコツです。また清掃消毒は定期実施も重要ですが、飛沫や接触で汚染される場面があったら臨機に清掃消毒してください。

② 健康チェックと感染予防に係る業務記録を行いましょ

近場へ外出する入居利用者もいますが、施設内クラスター発生の原因の殆どは職員の持ち込みです。**市中感染が広がっている時期は出来るだけ外食を避ける。家庭内感染の防止などを徹底**しましょう。

各入所・入居者、各職員の毎日検温も重要ですが、浴室や食堂などでは複数利用者の記録を取って、万が一施設内に新規感染者が発生した際には濃厚接触者が把握できるよう工夫しましょう。

③ 个人防护具(PPE)の正しい着脱方法を身につけましょ

感染リスクが高いのは脱衣の時です。ウイルスで汚染した部分に触れないように脱ぐことも大事ですが、脱ぎ始めと最後だけでなく、**防護具一つ一つを脱ぐ度の手指消毒を徹底**してください。

自分だけでなく職場パートナーの仕草もチェックして、お互いの感染リスクを教えてあげましょう。

④ 毎日終業前に振り返りミーティングをしましょ

これからの医療や介護サービスは、**感染対応出来ていることが必須**となってきます。一人でも我流や間違った感染対応することで、施設内クラスターを引き起こす原因になることがあります。

終業時など5分でも集まって、感染対応に係るその日の疑問や問題を意見し合いましょ。疑問や問題の内容は記録して、早めに施設や法人の感染対応指導者や責任者へ報告・相談しましょ。

またメンタルヘルスの問題も出来るだけ早期に、職場全体で防止し対策を考えることが重要です。

病院や施設で働く皆さまを対象とした、**感染対応や心のケア**の知識やスキルを向上させる動画が作成されています。ぜひご利用ください。

(Webリンク) <https://bit.ly/334QJJD>

